

鳥大病院でロボット手術

大動脈弁置換術 日本初、70代男性患者

鳥取大医学部付属病院

(鳥取県米子市西町)は24日、大動脈弁閉鎖不全症の患者に日本初となる手術支援ロボット「ダビンチ」を使った心臓の大動脈弁置換術を実施したと発表した。従来の手術より傷口が小さく、術後の回復が早いのがメリットで、同病院は症例を増やしていきたい考

え。

大動脈弁閉鎖不全症は、心臓が血液を全身に送り出す際、逆流を防ぐ役割を持つ大動脈弁がしっかりと閉まらなくなる病気。治療方法は心臓手術しかなく、人工弁に取り換える弁置換術が一般的となっている。置換術には胸の真ん中を大きく切る「胸骨正中切開」

か、右脇辺りを小さく切開

して胸腔鏡を補助的に使う方法の二つがある。正中切開は20〜25センチ程度の切開が必要で、退院まで2、3週間が必要となる。胸腔鏡は術後7〜10日で退院できるが、手術中に見える部分の確保が難しいといったデメリットがあった。今回のロボット手術で



ダビンチを使った大動脈弁置換術＝鳥取県米子市西町の鳥取大医学部付属病院(同病院提供)

は、傷は4〜8センチ程度で、高精度の3Dカメラで細部まで確認できる上、自在に動くロボットアームで正確

に病変部位へアプローチすることが可能となった。10月に手術を受けた70代男性患者は術後2時間で人工呼吸器を外し、9日目には退院したという。

同病院心臓血管外科の吉川泰司副診療科長は、高齢者に多い大動脈弁が狭くなる大動脈弁狭窄症にもロボット手術による大動脈弁置換術の応用を検討していると説明。また全ての患者に提供できないとしながら「ロボットを活用してより安全で体に優しい手術を提供していきたい」と話した。(田子蒼樹)